発　　行　高知市市民活動サポートセンター
企画・編集　認定特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

26号
2016 年 3 月 10 日

行川ホタルクラブ

高知駅北サイト
「栄える」TOWN 実行委員会

さくら会

学生コミュニティー
防災支援センター

お城下（おまち）ベース

大津子ども会連合会

● 目　次 ●

公益信託「高知市まちづくりファンド」
2015 年度 中間発表会

プレゼンテーション
　B「まちづくりはじめの一歩」コース　2
　C「まちづくり一歩前へ」コース

退任のあいさつ　4
運営委員のコメント
2015 年度　中間審査会を終えて　5

公益信託「高知市まちづくりファンド」　6
　■ 2015 年度（第 13 回）の予定
　■ 2016 年度（第 14 回）の予定
　寄付のお願い

公益信託「高知市まちづくりファンド」

2015 年度　中間発表会

2016 年 1 月 24 日（日）公益信託「高知市まちづくりファンド」2015 年度中間発表会を開催しました。応募団体・関係者あわせて約４０名が参加。

※ 今年度、Ａコースと Ｄコースの応募はありませんでした。

1 プレゼンテーション

３分間の発表を聴き、各事業について良いところ・質問・提案などを各自が付せんに書きました。

2 付せん貼りタイム

休憩も兼ねて、各自が書いた付せんを団体（各事業）のシートに貼っていきました。

3 意見交流

運営委員が、貼られた付せんの内容を紹介。課題解決にむけたアイデア出し、意見交流を行いました。

B 『まちづくりはじめの一歩』コース

GROUP B２

事業名：ホタルと人々が集う水辺と里の再生プロジェクト

行川ホタルクラブ

↑ 2016年１月23日　池の再生整備作業

私たちは、池を再生しホタルの里をＰＲしたいと考えている。行川小・中学校の子どもたちは、楽しい絵柄で看板を制作してくれ、それを池の入口２ヶ所に設置。ホタルの餌のカワニナ放流の計画もある。１月 23 日 10 名ほどが参加し、池の再生整備作業を実施した。地域の人々や行川小・中学校の子どもたちに対して情報を発信し、勉強会ではホタルの生態等も学んでいる。少なくなってきたホタルの存在を再確認し、この事業の大切さも伝えている。プロジェクトを通して、行川に関わる全ての人たちに少しの癒しを届け、この地への愛着が増していくことを望んでいる。

●Ｑ＆Ａ

Ｑ．地区の人はどれくらい参加し、どれくらい活動を知っていますか？

Ａ．主要メンバーは 5,6 名、学校の先生が 2,3 名。もちろん、行川小・中学校と連携してます。広報紙を通じてお知らせし、会った時にはその都度、話をしています。急には広がらないが、徐々に浸透していくと感じています。

■参加者の声

・地区の方や子どもたちをジワジワ巻き込んで活動を広げて進めていくという布石も打っておられるので、この調子で進めていってください。

C 『まちづくり一歩前へ』コース

GROUP C１

事業名：こどもも大人もきてみいや　（助成１年目）

お城下ベース

↑ 「夜のお茶会」の１シーン

「お城下（おまち）ベースに来てみいや」を合言葉に、大人も、子どもも「楽しい、また来たい」と思える場所づくりを目指して活動している。助成事業は、絵本やパネルシアターを楽しむ「おはなし会」、クラフトワークショップ「手作り時間」「ぬいぬいの会」「きもの文化勉強会」、ゲストをお呼びしてお話を聞く「夜のお茶会」、「音楽であそぼう」等を行ってきた。その中で参加者が別の催しにその講師を招くなど、文化の発信基地になっている。地元 大橋通り商店街振興組合の「るんだ商店街」には、約 100 名の来館があり、コミュニティースペースとしての認知が進んでいる。これからも、人と人をつなぎ、輪を広げる場所として活動していく。

●Ｑ＆Ａ

Ｑ．広報はどのようにしていますか？

Ａ．今は、会員さんへお手紙。Facebook や HP、「ほっとこうち」「クルール (CouLeur)」掲載。常時、お城下ベースに誰かがいるという体制をとれないのは弱い。

■参加者の声

・「不在の時は、〇〇へ連絡ください」と連絡先を記すという広報も必要。

・催しすべてを同じように広報するのではなく、ピンポイントで広報する工夫が必要ではないか。対象が子どもなら、保育園・幼稚園、小児科や子どもに関係する先に広報する工夫が大切。

GROUP C２

事業名：新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり　（助成２年目）

高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会

↑ 2015年9月26日
第７回お月見の夕べ

お月見の夕べやクリスマスイベント、栄える市場（フリーマーケット）を中心に参加者、来場者が増えて認知度も上がってきている。イベント時に開催した体験型教室には30名ほどの子どもが参加。1月に餅つきを開催した際には、子どもからお年寄りまでが交流し「親子３世代プロジェクト」としても実施できている。餅つきでは、学生コミュニティー防災支援センターの皆さんも一緒に交流し、今後は地域の消防団、学生との防災への取組みも視野にいれていこうと考えている。また、栄える市場を継続し皆さんが顔を合わせる場所をつくり、活用できる資源を大切にしていきたい。

●Q＆A
Q．広報は、どのようにされていますか？
A．近隣限定の折込を1万部、Facebook。実行委員として４年目、催しの出展や出演の方が多いとお客さんも増える。意識をしながら、口コミも有効だと思います。

■参加者の声
・無理をして若者を勧誘しても難しいので、高齢者に役割を持ち参加してもらう、巻き込んでいくことも大事。高齢者は、いろいろな楽しい知恵を持っています。それが生き甲斐につながるかもしれません。
・ただ呼ぶだけでなく、作る段階から子どもたちを「活動の担い手」として考え、活躍の場を設定してはどうでしょう。

GROUP C３

事業名：地域の共助の力を高め、介護予防につなげる　（助成２年目）

さくら会

↑ 2015年12月11日　第26回
リハビリキッチン食事風景と献立

(右上から時計回り)ふわふわがんもどきとおひたし、すまし汁、サバのミルクみそ煮、ミルクごはん、りんご(カスタードクリーム添え)

さくら会のリハビリキッチンの導入を図ることにより、「健康長寿をめざし、顔の見えるコミュニティづくり」の取り組みも２年目を迎えた。毎月２回リハビリキッチンを開催している。今年の目標は　①参加者を増やす ②ミニディとの共催 ③減塩（６ｇ）の取り組み ④リハビリキッチン手帳の作成 ⑤他地域にリハビリキッチンを広める ⑥参加出来ない方にお弁当を届ける　以上６項目。現在のところ、③と④は目標が達成できている。
①は、若干参加者が増えたが目標までには至っていない。⑤はKU-TVの取材や、NHKからの問い合わせ、セカンドライフや社協の見学等が見られはじめ、現在、団地以外の２地域からの参加者を迎え、地域への拡大に取り組んでいる。

●Q＆A
Q．参加者は17.2名とのことでしたが、会員数は何名でしょうか？
A．会員数は30名。高齢者なので、通院や入院等により人数の変動はあります。参加の核になるメンバーは決まっていますが、それ以外の方は入れ替わりがあります。

■参加者の声
・ニーズがあって、目に見えて成果が上がっているのが素晴らしい。
・“減塩生活”は、高齢者に限らず、若い人や子どもも大切なこと。食生活は自分の体を作り、食習慣は病気の原因にもなります。子ども会を対象にするという話もされているようですから、ぜひ実現してください。

GROUP C５

事業名：若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪。　（助成２年目）

大津子ども会連合会

↑ 2015年10月
リレー・フォー・ライフに参加

↑ 2016年1月　凧作りの１シーン

2015年８月、各自現地集合で土佐山夏祭りに参加、なるこ踊りをご一緒した。子どもたちはお買物券500円を、大人は田舎寿司をいただいて、頭上に上がる花火を堪能してきた。2015年10月、命の授業の一環として、リレー・フォー・ライフに参加。子どもたちは一日だけの参加。子ども会青年リーダーたちは、24時間、夜を徹して歩き、無事完走。テントを撤収し終わった後は、流石にみんな眠りの世界へ。2016年１月、当初、地域のお年寄りから学ぶため餅つきを計画していたが予定が合わず、凧作りに変更。出来た凧を、高知県教育センターの庭で揚げた。時々、皆の凧が絡まったりする場面もあったが、子どもたちは、寒さも何のその、凧を持って元気に走りまわった。

●Q＆A
Q．活動の担い手は何人くらいいますか？
A．地域内の中核メンバー10人ほど。事業により他地域からの応援もあり。保険は80人加入。

■参加者の声
・すぐに成果につながらない活動を地道に40年間続けてこられたこと、私たちの活動の励みになりました。自分たちの次の世代に残していけるよう、お互い頑張りましょう。
・もう少し“ゆるさ”や“勢い”で活動してみてはどうですか。迷惑かけることを恐れず、多少図々しさを持ち、お近づきになりたい地域のグループの方にも声をかけてみると、案外「いいよ」と言われるかも。「迷惑発散団体」になり、内でも外でも多くの方を巻き込んでください。

GROUP C６

事業名：防災ゲーム＆ワークショップによる防災まちづくり　（助成１年目）

学生コミュニティー防災支援センター

↑ 高知市比島交通公園での防災訓練

大学生の力を地域の防災活動の現場にいかすため、学生ボランティアのコーディネート、活動の企画、ツールの開発・製作などを行っている。その活動の一環で、昨年12月には活動に参加する学生の育成と交流を目的とする防災キャンプを行った。また、現在、高知市消防団江ノ口分団と連携し江ノ口地区での防災活動に学生ボランティアをコーディネートしている。現在は、江ノ口地区で学生ボランティアを動員した防災活動のモデルをつくることを目指している。また、高知市以外でも学生を動員した防災活動を行っており、須崎市では市の職員と学生が防災のアンケート調査を実施するなど、活動モデルの完成に向けて取り組んでいる。

↑ （12月開催）高知大学での防災キャンプ

●Q＆A

Q．一般社団法人を設立、事業も拡大されているようですが、何人がやられていますか？

A．代表理事１名、理事２名、地域に入りコーディネーターをしている学生が７名です。

■参加者の声

・学生と消防団の架け橋になって活動しているところが良いと思いました。

・いろいろな地域で防災意識を高めるという一役を担ってほしいです。

・活動が安定している団体は、それぞれに目的が違うかもしれないので、団体どうしが無理して連携しなくてもいいのでは。

● 退任のあいさつ ●

運営委員　**池　美保子**（高知県立大学社会福祉学部４回生）

池さんは、3月に大学を卒業。高知を離れます。

初参加は２年前、まだ20歳でした。責務を果たせるのか不安でいっぱいでしたが発表を聴くうちに、そんな気持ちが吹き飛んでしまったのを今でも鮮明に覚えています。それは、聞いていてワクワクしてくるような取り組みや熱意を間近に感じたからだと思います。

まちづくりは、一言で表すには難しいくらい多くの要素を含んでいます。しかし共通するのは、人を思いやり共に楽しむチカラなのではないでしょうか。これからもぜひ、皆様の持ち前のパワーで、高知のまちづくりを盛り上げていってください！

運営委員　**片岡　武志**（高知市長浜ふれあいセンター　センター長）

片岡さんは、引き続き、長浜ふれあいセンターにて、活躍中！

昨年７月、運営委員になり公開審査会と中間発表会の２回しか参加出来ませんでしたが、各団体の皆さんの活動を聞かせて頂き、私自身大変勉強になりました。各団体の皆さんが、様々な活動を通じて“まちづくり”に参加している熱い思いを感じました。活動を行っていく上で、色々な課題、問題点等が出てくると思いますが、仲間同士お互い協力し合って目的達成に向けて頑張って下さい。市民と行政が一緒になって“まちづくり”の輪が大きく広がっていくことを願っています。運営委員及び事務局の皆さんの温かいフォローに心から感謝申し上げます。

● 運営委員のコメント ●

運営委員長
増田　和剛
高知中学高等学校
教諭

この中間発表会は、活動当初に描いた活動とこの６ヶ月間で実際にやってきた活動を様々な視点で検証する場です。また、活動を進めていく中で見えてこなかった問題点の解決方法を見いだすきっかけとなる分岐点として、最終発表に向けての活動の方向性を客観的に捉えていく大事な時間です。

副運営委員長
堀　洋子
（社）高知県建築士会

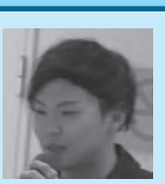
中間発表は助成団体が少ない中老若男女の多様な取り組みで、ゆったりと進められました。それぞれ活動を通して軌道修正しながら取り組まれていますが広がりに苦慮されている団体も有り、情報発信の名案が必要に思います。ネット社会の今、一方向の発信で無く口コミ等の顔と顔を通した”おさそい”が古くて新しい様に思います。

運営委員
石川　貴洋
認定特定非営利活動法人
環境の社こうち　事務局長

もしあなたの身近で、人のため一所懸命な誰かの姿を見たら、つい応援したくなりませんか？上手くいかず困っていれば、なおの事。「人さまに迷惑をかけるな」と言われてきた私たち。でも「言ってくれたら手伝うのに…」と見守る仲間や地域の人たちに、ちょっとずつ迷惑をかける＝活躍の機会を提供するのも、まちづくり活動に必要なことでは？

運営委員
片岡　武志
高知市長浜ふれあいセンター
センター長

中間発表を聞かせて頂いて、今後の事業展開が楽しみなものや少し心配なものもありました。活動を進めていく上で、色々な課題や問題点が出てくると思いますが、仲間同士の連携を深めながら知恵を出し合って、時には直接関係がない人達の意見も聞いて参考にするのも一つではないでしょうか。



運営委員
河渕　健
高知大学人文学部

昨夏の公開審査会から、どういった変化があったのかが聞けるのを楽しみに中間発表会を待っていました。どの団体の皆さまもそれぞれの進展があった、というのを見ることができて嬉しかったのと同時にこれから先がもっともっと楽しみです。次回の最終発表会も今回以上に楽しみです！

運営委員
宮地　貴嗣
ラ・ヴィータ　宮地電気（株）

皆様の中間報告を聞くことができ、うまくいっているところ、悩んでいるところを共有することができました。互いの発表を共有して、アドバイスが多くあり、協働できることも見つかったことは公開で報告会を行っていることのメリットです。最後まで活動頑張ってください。

※ 都合により運営委員２名は欠席されました。

二〇一五年度　中間発表会を終えて

運営委員長　増田和剛
（高知中学高等学校教諭）

●ツナガリをひろげる（人材の育成）

〝育成する〟に〝共育〟を踏まえ、団体と地域が順調に育っているでしょうか。

「参加しませんか？」とお誘いし参加していただけると、そこには思いがけず知り合いの方も参加していて、繋がりが広がっていくこともあります。「参加して楽しかった」という体験が〝口コミ〟で広がり参加者も増えていきます。そして、この人の繋がりの中でいろいろな活動が想像以上に幅を見せていくこともあります。人と人との関わりの中で、時間とともに活動が盛りあがっていくことでしょう。

また、活動を通じて活動規模が広がることにより迷惑をかけてしまうのではと心配をしてしまう話もありました。しかし、こんな時こそ活動を共に進めていきたい方とタッグを組んでみてください。憂慮するだけでは何も進まないこともあります。活動していてもなかなか広がらない時は、全然関係ない人と関わってみることで解決の糸口を見つけられるかもしれません。

●「見たいものしか見ない」時代

新聞を購読すると、興味関心関係なくいろいろな記事が目に飛び込んできます。ところが、今の若い世代は、興味関心のある部分での情報を収集するくらいで、「見たいものしか見ない（＝見なくていい）」時代となってしまいました。このように多様なたくさんの活動を知ってもらうにはピンポイントでモノを見てもらう機会や、いろいろな活動に参加をし、情報を発信する機会をつくるなど、いろいろな発信方法が必要ではないかと思います。

今、ＳＮＳ（注１）を通した情報が増えています。ほとんどの方は携帯電話やスマートフォンを所有されていますが、使いこなしている方はそう多くないかもしれません。だからこそ、活動には見せていく工夫と仕組み作りが必要となってきます。

●世代を越え、ツタエル

今回助成しているどの団体の事業にも、子どもから高齢者まで幅広い層の方が関わっています。子育て世代三、四十歳代は、時間的な余裕がなく参加が難しいかもしれません。多世代の方に参加して頂くには、地域の協力も必要ですが、そのためには時間も要します。多くの活動実績や関係づくりが団体や事業の認知度をあげていくことに必要だと思います。

大津子ども会連合会が言われた〝答えのない〟、〝長い〟地域づくりという言葉が強く印象に残っています。活動の継続を大事にしてください。活動を長く続けていくためには、人に伝える段階で、どう見せたいのか、いかに見せていくのかという視点も重要なポイントになると思います。活動を進めていくと、それをみる人は世代を越えて、イメージ（＝将来のカタチ）を膨らませていくと思います。

●出発資金としての〝ファンド〟

公益信託高知市まちづくりファンド（以下、〝ファンド〟）は、出発資金としての助成です。活動を継続していくためには、いかに自分たちの団体の活動を見せ続けていくかということです。

〝ファンド〟の原資は、高知市の税金を活用しています。このことも活動を進めていく際には、念頭に置き、活動を通じて地域へいかに還元していくのか、そして、自分たちの団体で活動していく基盤と人間関係を築いていきながら自立していくことが大きな使命でもあります。C「まちづくり一歩前へ」コースの助成は、一事業三回まで受けることができます。四年目、どのように活動していくのか、計画を持ちながら活動を続けてください。

●これから折り返し

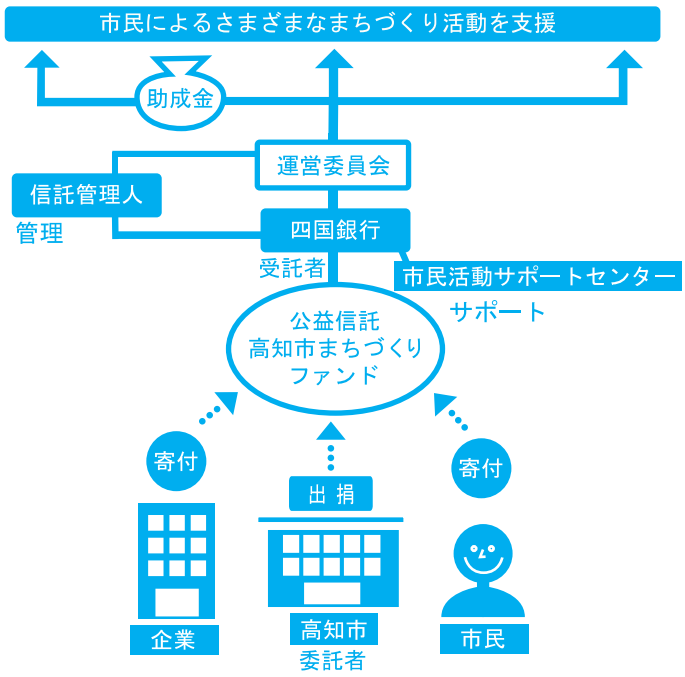
中間発表会にむけて、書類を準備して頂きました。これも大きな活動の一つです。思いつきの言葉で人に伝えることはできません。膨大な時間を要して準備してきたからこそ、伝えられる内容や情報があるのです。

五か月後の最終発表会（七月二十三日開催）にむけて、多くの協力者を見つけてください。その中から、今後の方向性が見えてくるのではないでしょうか。世代を越えた若者たち、人とのかかわり、役割分担、広報、資金繰り等、すべて口コミで広がります。印刷物でも見る人は見る、見ない人は見ない。〝ファンド〟も知る人は知る、知らない人は知らない。協力者を少しでも増やしていくことが、私たち運営委員の任務であり、助成団体みなさんの役割でもあると考えています。協力者が増えていくことは、〝ファンド〟が十年二十年と続くチカラになります。共に、がんばりましょう。

（注１）
ＳＮＳは、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service）の頭文字で、インターネット上の交流を通して社会的つながり（ソーシャルネットワーク）を築いていくサービスのこと。多用されているＳＮＳは、Ｆａｃｅｂｏｏｋ、Ｔｗｉｔｔｅｒ、ＬＩＮＥ…等。

公益信託「高知市まちづくりファンド」

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき高知市を住みよいまち、豊かな地域社会にするために行う、高知市民の自主的なまちづくりを支援しています。



助成コース紹介

A：「学生まちづくり」 コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します。
構成員のうち３名以上が18歳以上の学生であること。

助成金額　上限５万円

審査方法　書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

B：「まちづくりはじめの一歩」 コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額　上限５万円

審査方法　書類審査で助成先を決定します。助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます。

C：「まちづくり一歩前へ」 コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。
１事業３回まで助成を受けることができます。

助成金額　上限30万円

審査方法　公開審査会で活動内容の発表をしていただきその場で助成先を決定します。

D：「まちづくり拠点整備」 コース

まちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

助成金額　上限100万円

審査方法　公開審査会で活動内容の発表をしていただきその場で助成先を決定します。

高知市市民活動サポートセンター

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。「認定特定非営利活動法人ＮＰＯ高知市民会議」が運営を担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

まちづくりファンドは皆様のまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金を、毎年取り崩しながら助成しています。少しでも永く、市民のまちづくり活動に活かせられるよう、多くの皆さまのご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合せ・お申し込みは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行　お客さまサポート部　信託担当
TEL. 088-871-2308（直通）〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

■ 2015年度(第13回)の予定

最終活動報告書の提出期限	**７月　４日（月）**
最終発表会	**７月２３日（土）**

■ 2016年度(第14回)の予定

Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄコース共通

≪応募受付≫
４月18日（月）～６月24日（金）
事前相談をご希望の方は、応募受付期間内にご連絡の上、お越しください。

公開審査会　**７月２４日（日）**

応募締切 6/24（金）

発行・お問い合せ先　高知市市民活動サポートセンター
〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43
高知市たかじょう庁舎２階
TEL. 088-820-1540　FAX. 088-820-1665
E-mail：info@shiminkaigi.org　URL http://www.kochi-saposen.net/